

第5章 事業の方向性及び目標の設定

本章では、前述までの調査結果に基づき、尾張国分寺跡の保存と活用の理念と方向について記述する。

第1節 基本理念

尾張国分寺跡は、史跡指定を受け、発掘調査が進み、多くの貴重な出土品がある。さらに今後古代の尾張国の拠点の全体像を解明し、将来に向けてその価値を保存・活用していくことになる。そのために、土地の公有化が必要である。

交通の便や案内サインの充実などアプローチしやすい環境づくりなどと合わせ、まずは市民への啓発等により徐々に認識を高めていくことが求められる。

親しめる歴史資源としていくためには、上位計画にもあるように観光資源としての活用が望まれるが、他地域の例を見ても国分寺跡単体では集客力は弱い。周囲に文化資源や観光資源があるため、それらとのネットワーク化により付加価値を高めていくことが有効である。

とりわけ、国府宮は付近に尾張国府があったことに由来するもので、これと合わせて古代尾張国の中心としての特性をアピールしていくべきである。

史跡の存在を正しく認識し、その価値を学び、親しめる環境を提供する必要があり、史跡近接地も含めた史跡公園として、保全と調和した形でそれらの機能を整備することを基本とする。

また、植木産業の集積地にあるため、コラボレーションにより相互に付加価値を高め合う方向での整備が望ましい。

これらの推進には、行政だけでなく市民との協働体制の構築が不可欠であり、市民意識を高めながら時間をかけて市民参加による「古代尾張国の中心」の価値を再現していくことになる。本構想はその第一歩（序章）である。

「古代尾張国の中心」覚醒への序章

尾張国分寺跡を、奈良時代には尾張国の中心をなす歴史文化資源である尾張国府跡・国府宮・尾張国分寺跡推定地などと連携させ、市民と協働し、息の長い取り組みにより、今に目覚めさせる。

この貴重な歴史的遺産の保存を最優先に、歴史文化を知り、学び、親しめる史跡公園の整備を図るものである。また、観光や地場産業とも結びついた「保存と活用」の稲沢モデルを構築していくものである。

これにより、古代尾張国の中心としての稲沢市民の自覚と誇りを持って、文化創造都市形成の柱としていく。

第2節 基本方針（資料編Ⅱ）

稲沢モデルの構築を目指した保存と活用の基本方針を表6に示す。

（稲沢市尾張国分寺跡史跡保存整備委員会の検討結果5項目を包含している。）

表6 保存と活用の基本方針

保存	活用
①史跡等の文化財的価値の保存	①市民の認識、自覚を高める啓発、教育活動
②調査研究の継続的实施による全貌の解明推進	②周囲の資源との連携による観光資源、史跡公園としての活用
③調査研究結果の周知と公開、保存管理体制・施設の充実	③地域文化向上の素材、拠点としての活用
④景観の保全と再生	④地域産業とのコラボレーションによる相乗効果の発現
	⑤尾張国分寺跡の価値発揮に必要な環境、施設、基盤の整備

古代尾張国の中心としての誇り

（1）「活用」方針の内容

① 市民の認識、自覚を高める啓発、教育活動

尾張国分寺跡の歴史的な意義、学術的な価値を後世に伝え、かつ対外的にも説明・アピールできるよう、体系的な教育を行う。学校教育や生涯学習における歴史学習や体験学習の場として、まず市民が歴史を理解し、関心を持てるような働きかけを行う。

② 周囲の資源との連携による観光資源、史跡公園としての活用

尾張国分寺跡周辺の遺跡・文化財や文化施設をはじめ、地域固有の資源との連携を図り、積極的な情報発信を行うとともに、市内での観光振興に繋げる連携体制を行政内で企画し、民間も含め築いていく。

③ 地域文化向上の素材、拠点としての活用

古代尾張国の中核施設という地域文化向上の素材、また、歴史的な意義を踏まえた地域固有の魅力ある拠点として、尾張国分寺跡の存在をよりわかりやすく、人々が身近に感じやすくするため、案内・サインや解説資料等を整備していく。

さらに、尾張国分寺跡の価値を説明し、伝えることができる人の育成を進め、尾張国分寺跡に親しむ人のネットワークを強め、市民との協働による保存・管理・活用の体制づくりを進める。

④ 地域産業とのコラボレーションによる相乗効果の発現

財界やNPOの参加など市の特徴を出しながら活用と啓発を行うとともに、尾張国分寺跡周辺は、植木産業の集積地であるため、コラボレーションにより相互に付加価値を高め合う方向で整備を進め、史跡の魅力向上を図っていく。

⑤ 尾張国分寺跡の価値発揮に必要な環境、施設、基盤の整備

尾張国分寺跡周辺の環境及び学習活動等の拠点ともなる（仮称）尾張国歴史館、地域振興策としての（仮称）ふれあい広場、来訪者の利便性やアクセス改善を図るための基盤など、尾張国分寺跡の価値を発揮できるよう計画的に整備を進めていく。

第3節 全体整備構想

1 全体ゾーニング

尾張国分寺跡を中心に、基本理念を踏まえ、基本方針に沿った整備、保存・活用策を重点的、集約的に進めていくゾーンを設定する。

古代尾張国の中心である尾張国分寺跡と尾張国府跡を重要な資源とし、その周辺の歴史文化資源、観光資源及び植木産業を取り込み、以下のような2つのゾーンを考える。

(1) 尾張国分寺跡ゾーン

史跡の一次指定地、二次指定予定地のほか、導入部や関連背後施設整備等を考慮した周辺も含めた範囲を基本とする。また、周辺の歴史文化資源〔尾張国分寺跡に近接する矢合観音、円光寺（萩寺）、（現）国分寺、法華寺（周辺が尾張国分尼寺跡と推定）〕が集積する矢合地区もゾーンの範囲とする。

このゾーンを、図13のように「保存整備エリア」「施設整備エリア」及び「周辺環境エリア」に区分する。

- ① 「保存整備エリア」：一次指定地及び二次指定予定地内を想定
- ② 「施設整備エリア」：指定地外、県道の隣接地を想定
- ③ 「周辺環境エリア」：保存整備エリア周辺の歴史文化資源の分布地区

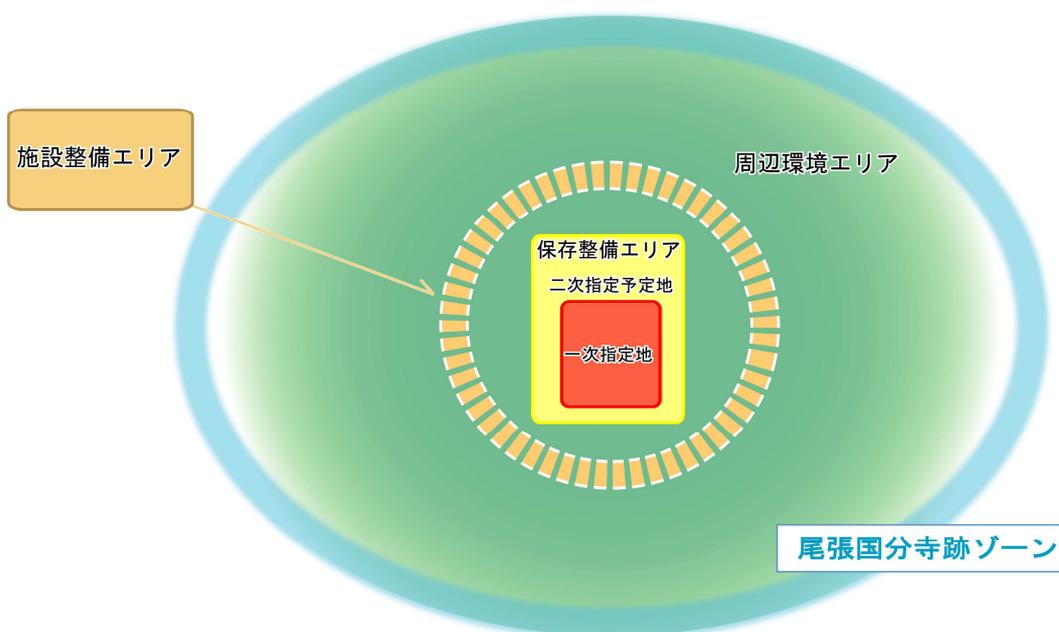


図13 尾張国分寺跡ゾーンのエリア区分図

(2) 国府跡ゾーン

尾張国府があったとされる国府宮付近を中心とした範囲とする。萬徳寺、東畑廃寺跡、美濃街道稲葉宿跡などが含まれる。

2 ネットワーク

尾張国分寺跡を拠点に、これを全市的に活用するため、連携すべき資源を結ぶネットワークを形成する。

ネットワークに沿って、交通体系や案内サイン等のシステムの整備充実を図る。

(1) 古代尾張国の中心を体感するネットワーク

尾張国分寺跡～法華寺（尾張国分尼寺跡推定地）～安楽寺（船橋）～尾張国府跡・国府宮等を巡る。

(2) 地域の歴史文化と地場産業を巡り体感するネットワーク

尾張国分寺跡～(現)国分寺、矢合観音、円光寺（菘寺）等を巡る。

(3) 緑の豊かさと産業文化を体感するネットワーク

尾張国分寺跡～愛知県植木センター～長暦寺・神明社等を巡る。

(4) 八神街道に沿って多彩な文化・観光資源をたどるネットワーク

尾張国分寺跡～（八神街道）～木曾川等をたどる。

(5) 三宅川沿いに歴史文化・観光の景観をたどるネットワーク

尾張国分寺跡～（三宅川）～日光川等をたどる。

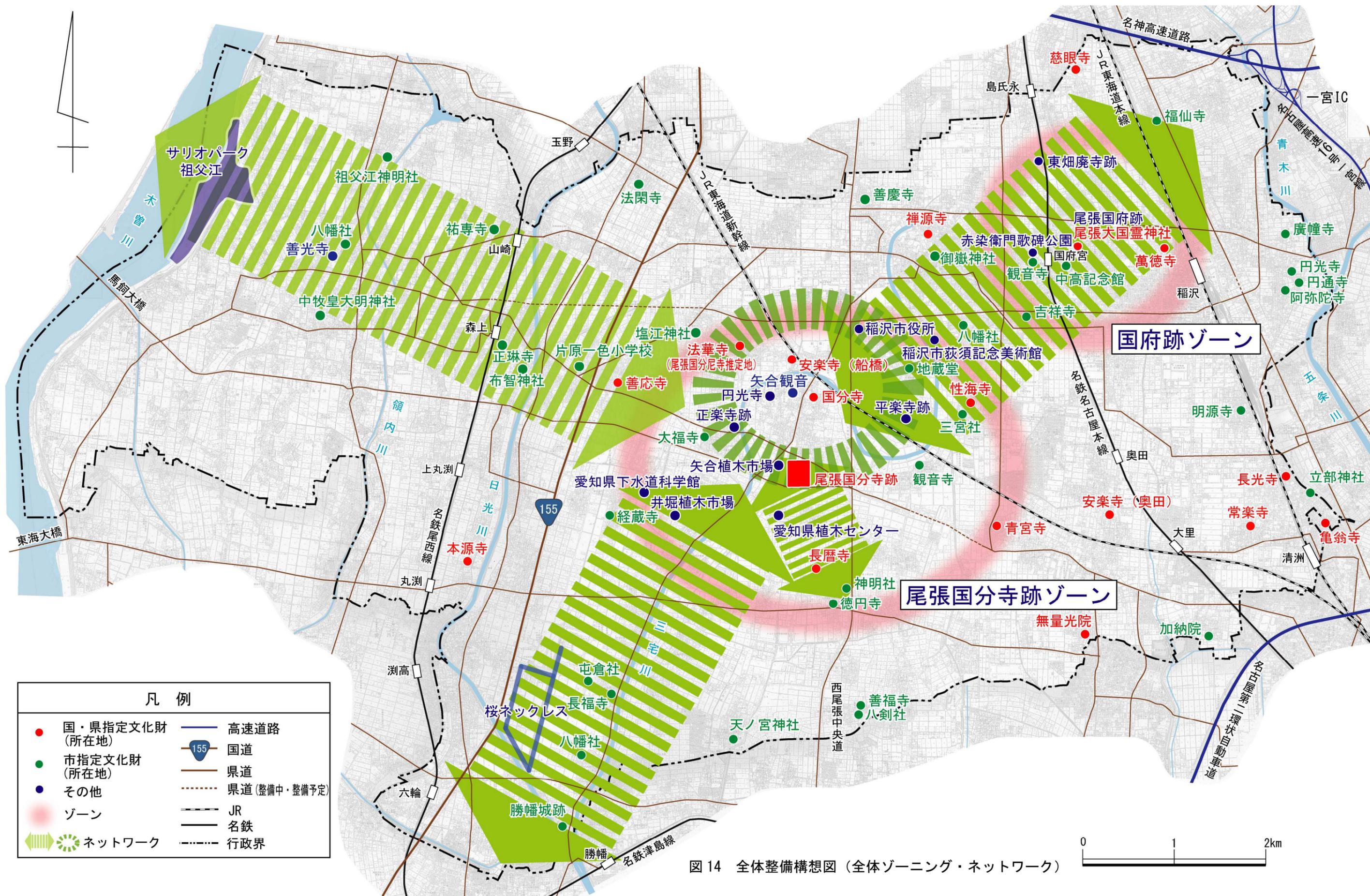


図14 全体整備構想図 (全体ゾーニング・ネットワーク)

第4節 ゾーン別整備構想

尾張国分寺跡ゾーン及び国府跡ゾーンのゾーン別の地区概要と保存活用・整備方針を表7及び表8に示す。

表7 地区概要

ゾーン区分	大区分	細区分	地区概要	
尾張国分寺跡ゾーン	国指定地内 (保存整備エリア)	一次指定地	一次指定されている地区であり、主要な伽藍施設である講堂、金堂、塔などが確認されている。現状は私有地であり、植木・苗木が栽培されている。底地は埋蔵文化財包蔵地となっている。	
			金堂	現状は私有地であり、農地として使用されている。保全・活用のための整備はなされていない。 発掘調査により、金堂の北西隅、西端、南端が確認されている。東西 25.6m、南北 21.6m の規模である。
			講堂	現状は私有地であり、農地として使用されている。保全・活用のための整備は一切なされていない。 発掘調査により、講堂の南端及び礎石 2 個が確認されている。
			塔	現状は私有地である。塔のあったことを示す石碑が建てられており、礎石が 4 個むき出しの状態で見られている。来訪者のため、塔跡への誘導看板が 2 か所設置されている。 発掘調査により塔の西端及び東端が確認されている。
			回廊	現状は私有地である。発掘調査により、西側の回廊の一部が確認されている。
		二次指定予定地	今後追加指定をしていく地区であり、道路・水路以外は私有地である。苗木・植木の栽培をはじめ農地として利用がされている。底地の大部分が埋蔵文化財包蔵地となっている。また、尾張国分寺跡の説明看板が設置されている。	
			南門	現状は道路敷である。発掘調査により、存在が推定されている。
			寺域	発掘調査により寺域の南端と思われる区画溝と西端の可能性のある区画溝が確認されている。確認された区画溝部分の現状の土地利用は道路敷である。
		国指定地外	施設整備エリア	指定地外、県道の隣接地に当たり、現状は住宅地及び農地の土地利用となっている。主要伽藍の建物等の遺構は分布しないと考えられる。 南には愛知県植木センターが所在する。
			周辺環境エリア	保存整備エリア周辺の歴史文化資源の分布地区である。現状は住宅地及び畑地の土地利用となっている。 東～北～西には三宅川が蛇行し南流している。
国府跡ゾーン	景観整備エリア	尾張国府跡、国府宮、東畑廃寺跡を含む範囲である。現状は、名鉄名古屋本線国府宮駅の周辺に当たり、市街地的土地利用がなされている。尾張国府跡には、国衙の石碑はあるが、尾張国分寺跡との関連を示す看板がないため、尾張国分寺跡との関連が分からない。 国府跡ゾーンと尾張国分寺跡ゾーンとの間には、江戸時代に東海道宮宿と中山道垂井宿とを結んだ脇街道の美濃街道が通っている。		

表8 保存活用・整備方針

ゾーン区分	大区分	細区分	保存活用・整備方針
尾張国分寺跡ゾーン	国指定地内（保存整備エリア）		<p>今後、地権者の協力を得ながら公有化を進め、主要な伽藍施設について、発掘調査の結果を踏まえた保存整備を図っていく地域である。</p> <p>尾張国分寺跡の主要建物群を擁するコアゾーンとして、遺構の平面表示整備、名称・案内解説看板の設置、園路整備等を行う。</p>
		金堂	発掘調査結果に基づく保存整備手法を検討し、環境基盤整備を充実し、文化財としての公開活用を図る。
		講堂	今後の発掘調査の進展に伴い、遺構の適切な保全を図りつつ、遺構の表現手法を検討する。
		塔	石碑の適切な保全のもと、発掘調査結果を踏まえた遺構の保護を前提に、礎石も含めた塔跡の保存整備を図る。
		回廊	発掘調査の進展に合わせ、金堂と回廊の関係を明らかにする保存整備手法を検討する。
	二次指定予定地		今後、地権者の協力と理解を得ながら、国の指定史跡として追加指定を進めていく地域である。整備に必要な発掘調査を行い、遺構の解明を進めつつ、史跡公園にふさわしい環境整備を図っていく。また、緩衝帯として寺域の表示と修景植栽等を行う。
		南門	発掘調査の成果を踏まえ、説明看板などにより必要な学習機能を付加する。
		寺域	発掘調査の成果を踏まえ、今後も調査可能地において、発掘調査など各種調査を実施し、遺構の解明に努める。寺域が解明された場合には、修景植栽による遺構の表現を検討する。
	国指定地外	施設整備エリア	県道の隣接地に（仮称）尾張国歴史館（ガイダンス施設）などの学習機能施設を設置し、便益施設である（仮称）ふれあい広場と一体的、体系的に整備を進める。
		周辺環境エリア	周辺の文化財との一体的活用を図るため、ネットワーク動線の整備を進める。
国府跡ゾーン	景観整備エリア	国府などの歴史的学習機能を付加するとともに、尾張国分寺跡及び美濃街道との連携を図るための動線及びサインを検討する。	

保存活用・整備方針

【遺構の保存】

- ・必要な箇所において、盛土等により遺構保存を図る。
- ・必要な箇所において、雨水・排水対策を講じる。

【遺構整備】

- ・金堂は、発掘調査の成果に基づき、基壇整備を基本に行う。
- ・塔は、既存の石碑や礎石の適切な保全整備を図る。
- ・講堂、回廊は、今後の発掘調査の進展に伴い、適切な遺構整備を検討する。

【修景整備】

- ・景観を阻害する樹木は伐採・除去するとともに、樹木根系の遺構面への影響を排除する。
- ・景観阻害要素を適切な植栽樹木により遮蔽する。
- ・必要な箇所に適切な芝生などの地被植物を植栽する。

【施設整備】

- ・遺跡の価値の理解増進のために説明板を設置するとともに、移動の利便のための案内板を設置する。

【遺構保存】

- ・南門は、道路敷であるため現状を維持する。
- ・寺域は、発掘調査を進め遺構の解明に努める。

【修景整備】

- ・寺域が解明された場合には、修景植栽により築地塀の修景整備を行う。
- ・尾張国分寺跡の説明看板を見直すとともに、必要な箇所に新たに説明板を設置する。
- ・バーチャルリアリティを活用した尾張国分寺の再現など、説明システムの整備・運用を検討する。

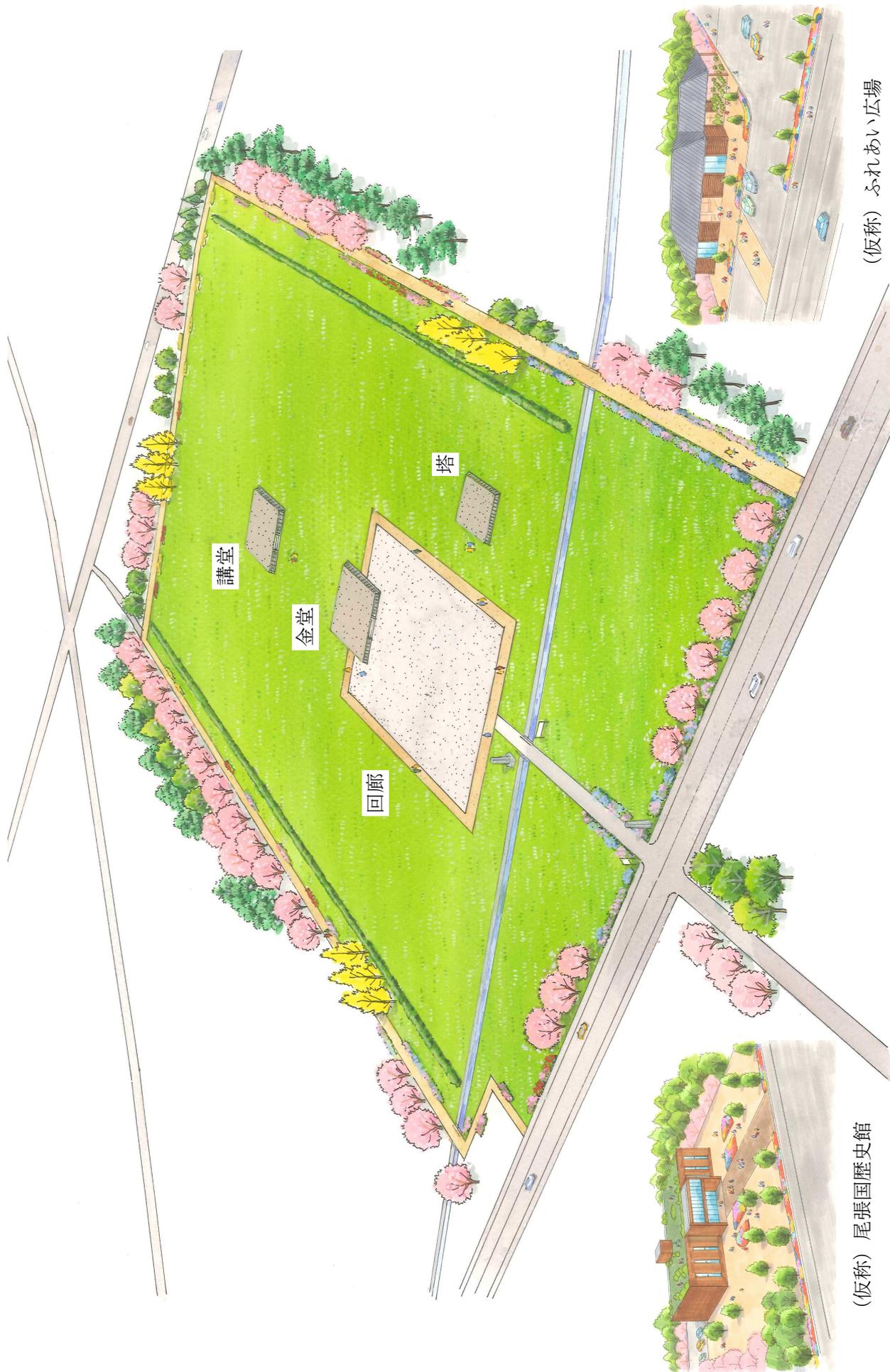
【施設整備】

- ・導入部として、（仮称）尾張国歴史館（ガイダンス施設）を設置する。
- ・（仮称）ふれあい広場の整備に合わせ、駐車場、トイレなどの施設整備を行う。
- ・（仮称）ふれあい広場には修景植栽を施し、指定地から見た時に景観を阻害しないよう眺望に配慮する。また、植木・苗木の展示販売施設を合わせて設置する。

【施設整備】

- ・必要な箇所に遺跡の価値の説明板、案内板を設置する。

- ・国府の位置は明確でないものの、その価値を表現するための説明板を設置する。
- ・旧街道について市民や来訪者へ説明するための看板を設置する。
- ・尾張国分寺跡との連携を図るため、移動しやすくするための看板を設置する。



(仮称) 尾張国歴史館

(仮称) ふれあい広場

※この図は整備のイメージである。

図 15 尾張国分寺跡整備イメージ図

第5節 ネットワーク整備構想

尾張国分寺跡を中心拠点として、市内各方面を結ぶ歴史文化のネットワーク機能の形成を図るため、5つのネットワークごとに整備充実の方針を示す。

1 古代尾張国の中心を体感するネットワーク

尾張国分寺跡～法華寺（尾張国分尼寺跡推定地）～安楽寺（船橋）～尾張国府跡・国府宮等を巡る。

(1) 主要な資源

- 国指定文化財：国府宮（楼門・拝殿）、性海寺（本堂・多宝塔）、萬徳寺（多宝塔・鎮守堂）、法華寺（木造薬師如来坐像）、安楽寺（船橋）（木造十一面観音立像など）
- 県指定文化財：鉄鉢会（はだか祭）、萬徳寺（木造大日如来坐像など）、性海寺（木造阿弥陀如来坐像など）、安楽寺（船橋）（木造兜跋毘沙門天立像）
- 市指定文化財：観音寺（金銅勢至菩薩立像）、中高記念館、吉祥寺（銅造素文磬）、八幡社（ムクノキ）、地藏堂（円空仏）、三宮社（御武射）
- その他：尾張国府跡、東畑廃寺跡、平楽寺跡、荻須記念美術館、稲沢公園など

(2) 整備充実の方針

「尾張国分寺跡ゾーン」と「国府跡ゾーン」との連携を図り、「国府跡ゾーン」から人を呼び込み、古代尾張国の中心を体感する。

【整備充実の内容】

レンタサイクルシステム、歩道の快適舗装化、駐車場整備、統一デザインの案内サイン表示の整備など

(3) コースの例

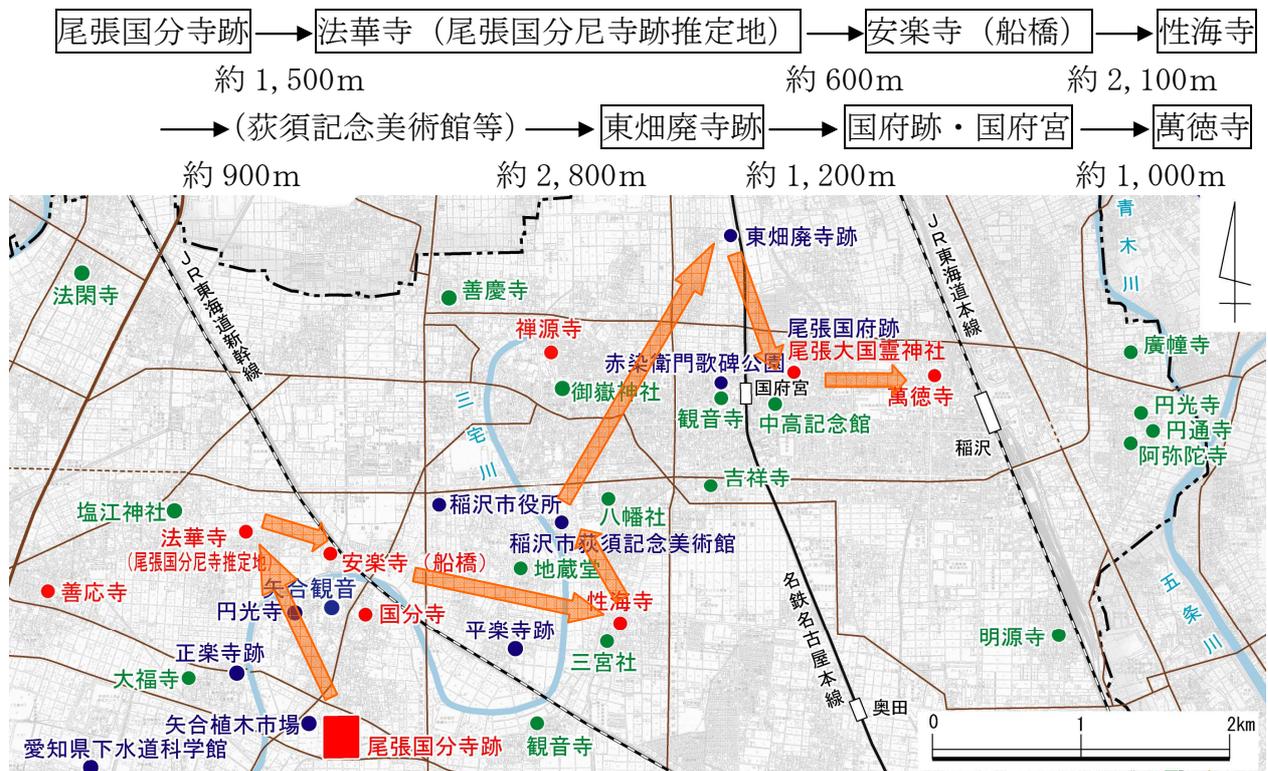


図 16 古代尾張国の中心を体感するネットワークコース図

2 地域の歴史文化と地場産業を巡り体感するネットワーク

尾張国分寺跡～(現)国分寺、矢合観音、円光寺(萩寺)等を巡る。

(1) 主要な資源

●国指定文化財：(現)国分寺(木造釈迦如来坐像など)

●その他：矢合観音、円光寺(萩寺)、矢合町内の路傍の石仏、矢合植木市場、平和の塔・自由広場など

(2) 整備充実の方針

尾張国分寺跡周辺地域を自転車や徒歩で巡回し、矢合観音や石仏などこの地域独自の歴史文化や植木の仕立物・見本園・矢合植木市場などで地場産業を体感する。

【整備充実の内容】

バス路線の延長、レンタサイクルシステム、歩道の快適舗装化、三宅川沿いの遊歩道化、駐車場整備、トイレ整備、統一デザインの案内サイン表示の整備など

(3) コースの例

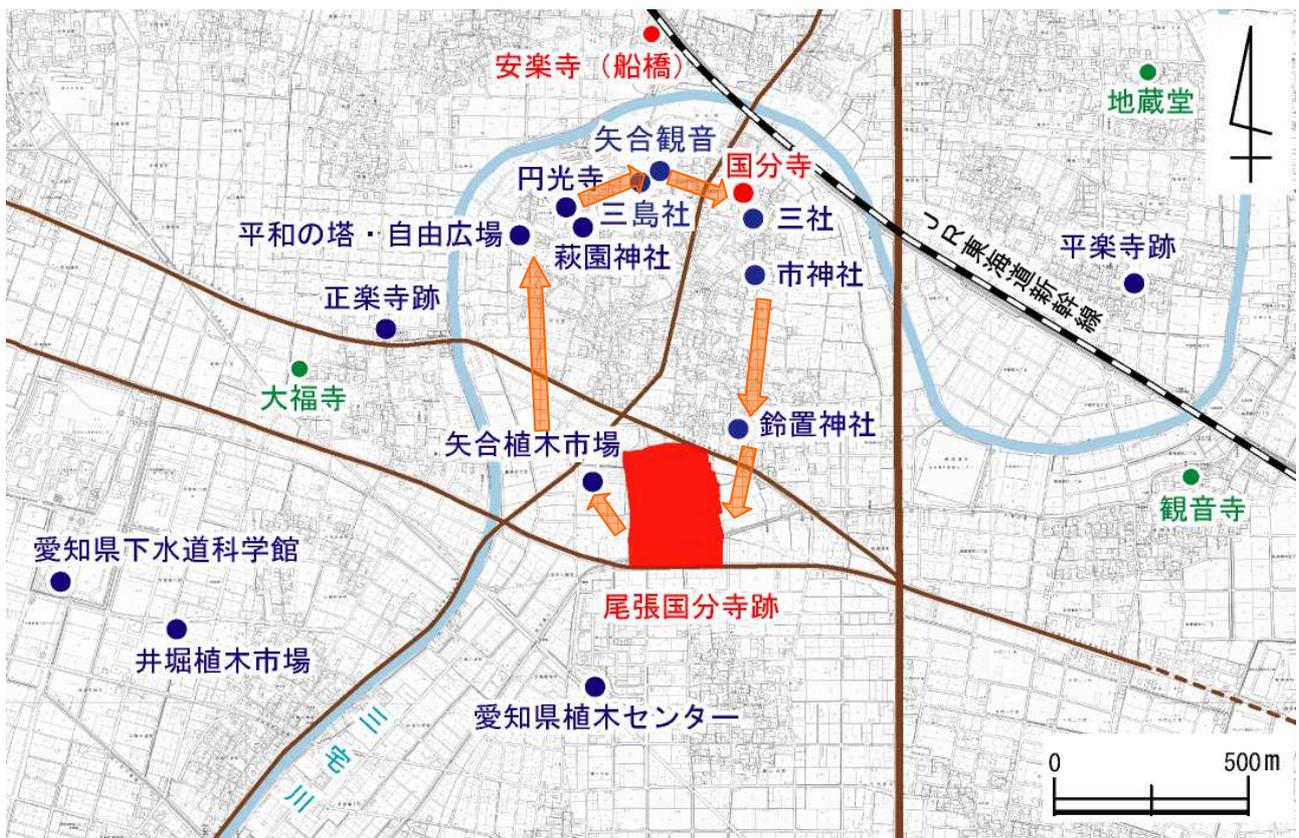
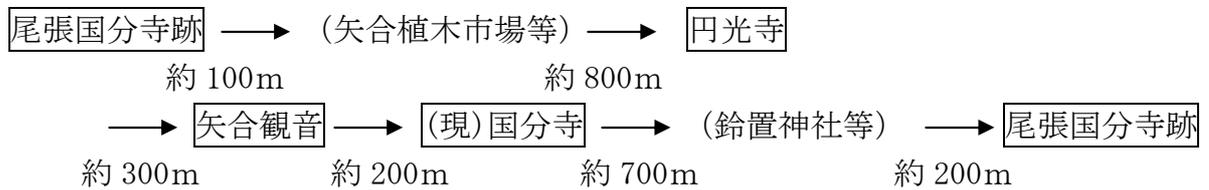


図 17 地域の歴史文化と地場産業を巡り体感するネットワークコース図

3 緑の豊かさと産業文化を体感するネットワーク

尾張国分寺跡～愛知県植木センター～長暦寺・神明社等を巡る。

(1) 主要な資源

- 県指定文化財：長暦寺（木造大日如来坐像・木造阿弥陀如来坐像）
- 市指定文化財：徳円寺（絹本著色證如上人像）、神明社（モッコク）
- その他：愛知県植木センター、矢合植木市場など

(2) 整備充実の方針

地場産業の植木・苗木や愛知県植木センター、矢合植木市場等で、この地域にある緑の豊かさを体感する。

【整備充実の内容】

バス路線の延長、レンタサイクルシステム、歩道の快適舗装化、駐車場整備、トイレ整備、統一デザインの案内サイン表示の整備など



図 18 植木・苗木の散策路整備イメージ図

(3) コースの例

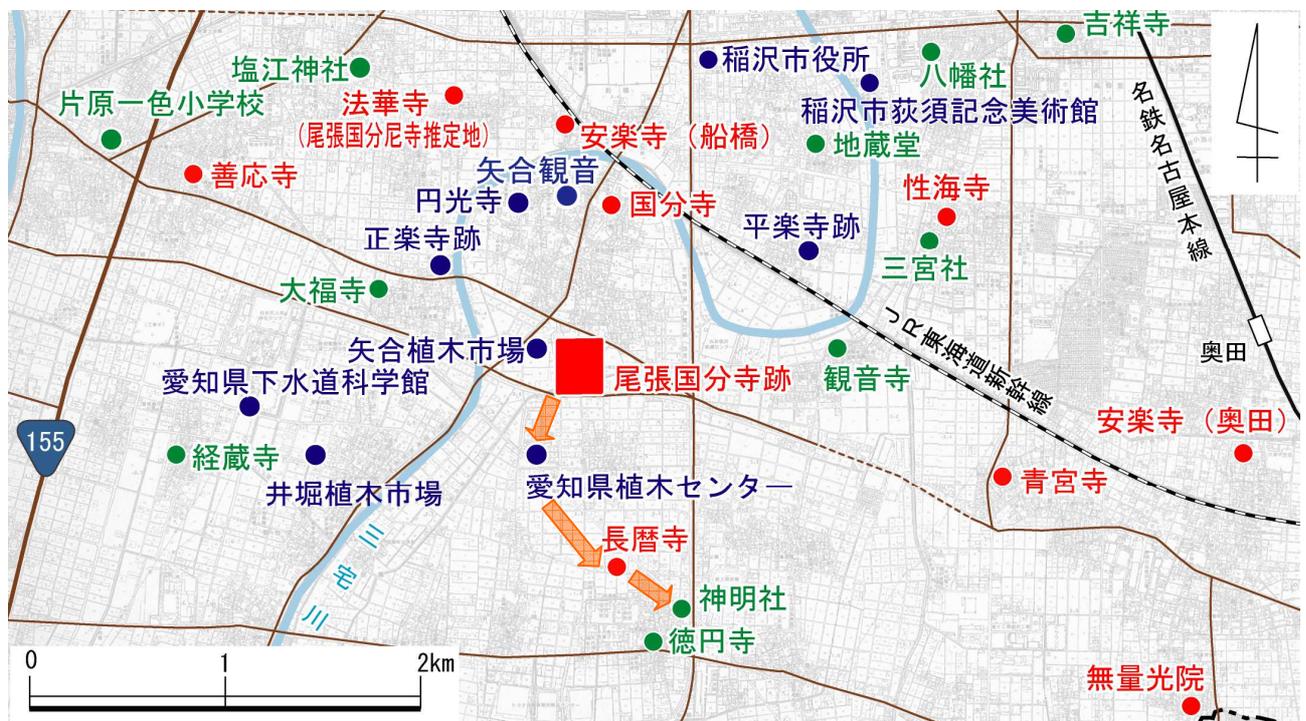
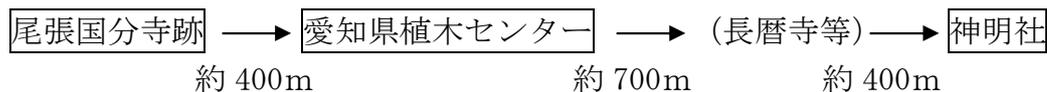


図 19 緑の豊かさと産業文化を体感するネットワークコース図

4 八神街道に沿って多彩な文化観光資源をたどるネットワーク

尾張国分寺跡～（八神街道）～木曾川等をたどる。

(1) 主要な資源

● 県指定文化財：善応寺（銅造大日如来坐像）

● 市指定文化財：祐専寺（イチョウ）、祖父江神明社（神明社文書）、八幡社（高熊の輪くぐり）、中牧皇大明神社（ヒトツバタゴ）、正琳寺（絹本著色頭如上人像・紙本墨書教如上人消息）、布智神社（シイノキの群生）、片原一色小学校（クロマツ）、塩江神社（シイノキ）、大福寺（オオムラサキ）

● その他：サリオパーク祖父江、愛知県下水道科学館、善光寺、正楽寺跡など

(2) 整備充実の方針

サリオパーク祖父江や祐専寺のイチョウなど時代を超えた観光資源があり、観光の軸として、また、尾張国分寺跡は市の中心に位置することから、市内全体の教育の拠点として、歴史文化・観光資源をたどる。

【整備充実の内容】

駐車場整備、トイレ整備、統一デザインの案内サイン表示の整備など

(3) コースの例

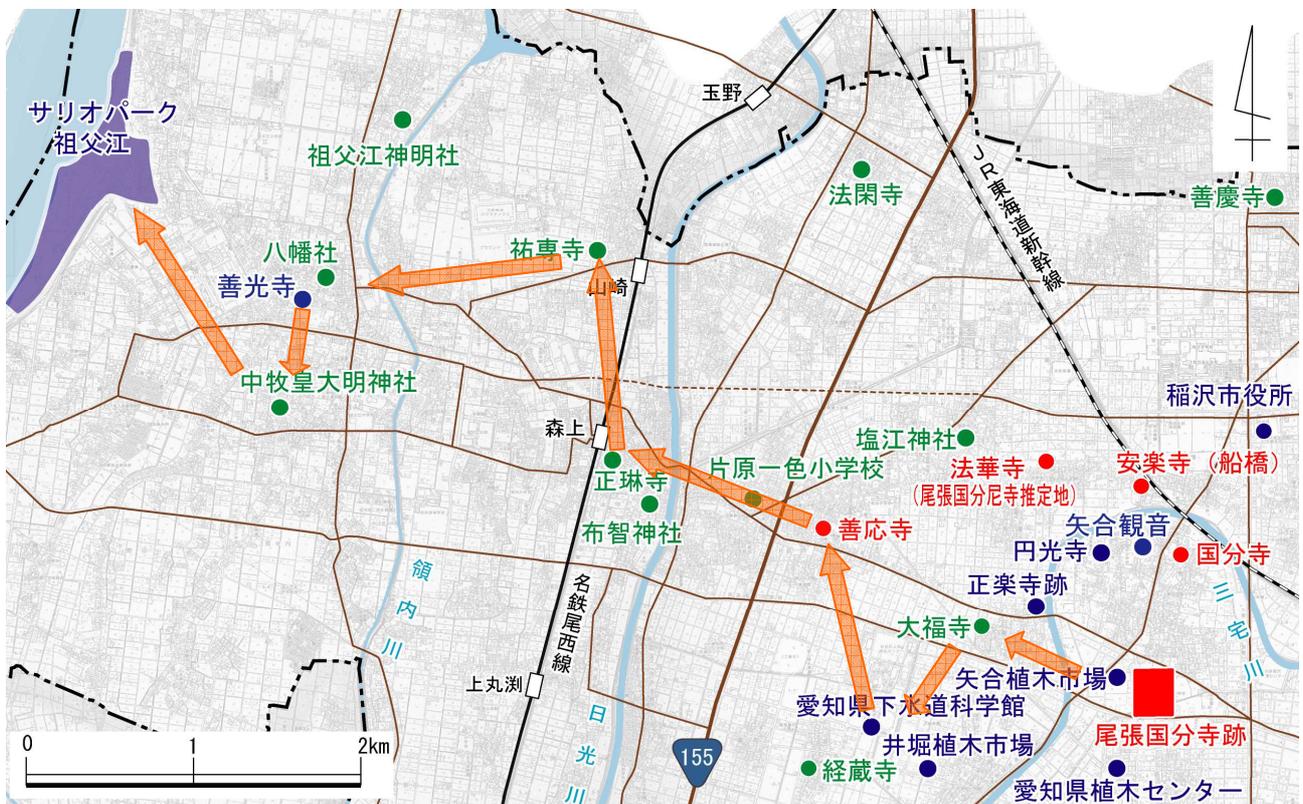
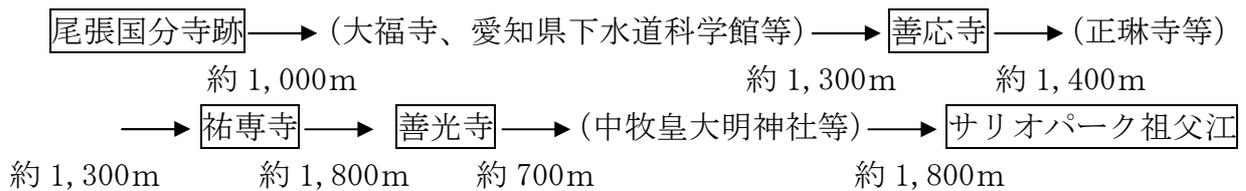


図 20 八神街道に沿って多彩な文化観光資源をたどるネットワークコース図

5 三宅川沿いに歴史文化・観光の景観をたどるネットワーク

尾張国分寺跡～（三宅川）～日光川等をたどる。

(1) 主要な資源

●市指定文化財：勝幡城跡、長福寺（仁王門付仁王像・長福寺文書）、八幡社（クスノキ）

●その他：屯倉社、桜ネックレスなど

(2) 整備充実の方針

三宅川沿いにある屯倉社（三宅廃寺）、勝幡城跡、桜ネックレスなど魅力ある歴史文化・観光資源があり、観光の軸として、また、尾張国分寺跡は市の中心に位置することから、市内全体の教育の拠点として、歴史文化・観光資源をたどる。

【整備充実の内容】

レンタサイクルシステム、歩道の快適舗装化、三宅川沿いの遊歩道化、駐車場整備、トイレ整備、統一デザインの案内サイン表示の整備など



図 21 三宅川沿いの散策路整備イメージ図

(3) コースの例

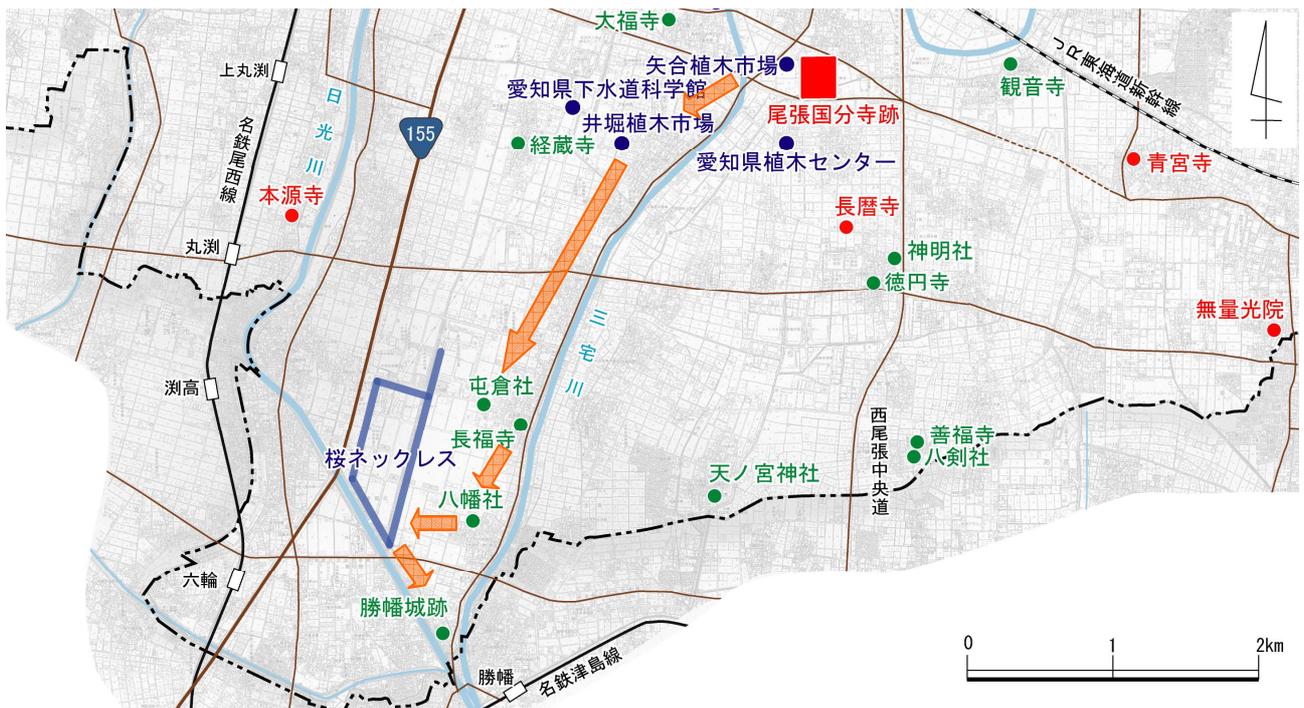
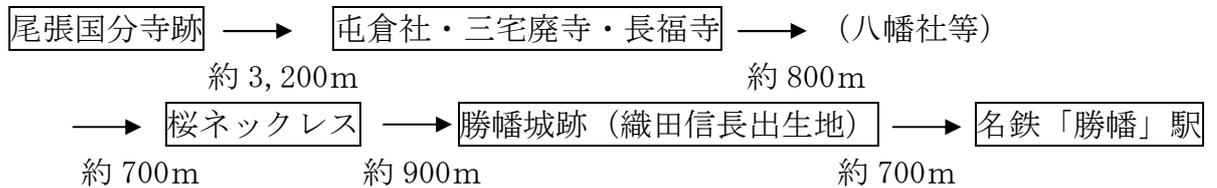


図 22 三宅川沿いに歴史文化・観光の景観をたどるネットワークコース図

第6節 (仮称) 尾張国歴史館の整備 (資料編Ⅲ、資料編Ⅳ-1・2)

1 整備の目的

歴史文化的なものを残し後世に伝え、歴史文化をより具体的に発信するため、出土品等の保存・展示、学習活動等の拠点ともなるガイダンス機能を持つ、専門職員を配置した(仮称)尾張国歴史館を整備する。

2 (仮称) 尾張国歴史館の機能

(1) 収集・収蔵機能：出土品等を保存

尾張国分寺跡からの出土品や市の歴史文化資源を一括して保存していく。また、広く尾張国の歴史文化資源についても収集・収蔵していく。

(2) 調査・研究機能：学習活動等の拠点

尾張国分寺跡や市の歴史文化の資産を適切に保存・活用するため、幅広い調査・研究を行っていく。

(3) 展示・公開機能：出土品等を展示

ジオラマで尾張国分寺跡を視覚的に展示するなど尾張国分寺跡や市の歴史文化を内外に発信していく。

(4) 教育・普及機能：収蔵資料の活用

市民が広く、(仮称)尾張国歴史館の収蔵資料を活用し、学習・研究できるしくみの整備に取り組んでいく。



※この図は整備のイメージである。

図 23 (仮称) 尾張国歴史館整備イメージ図

第7節 (仮称) ふれあい広場の整備

1 整備の目的と整備方針

- ・地域産業の振興策として、植木産業と歴史的な情報を発信するため施設を整備する。
- ・施設のイメージは、尾張国分寺跡と調和した設計により整備を行うものとする。
- ・駐車場、トイレは適正な配置、収容規模の確保ができるよう整備する。また、単にトイレなどの利用だけで帰るのではなく、尾張国分寺跡に誘導するような歩行者動線に配慮する。
- ・地元の人達を取り込み、住民協働による維持管理を浸透させていけるよう、植木の情報センター機能や植木・地元農産物の販売を行い、ガイドも常駐できるよう整備を行う。
- ・尾張国分寺跡の関連資料や調査研究の成果等より効果的に情報発信する拠点としての機能も持たせる。
- ・ネットワークの中核となる施設にするため、バスターミナルやレンタサイクルの拠点としての整備を行う。

2 (仮称) ふれあい広場の機能

(1) 休憩機能

- ①駐車場の整備 ②トイレの設置

(2) 情報発信

- ①ガイダンス機能 ②植木・苗木の情報センター機能

(3) 地域の連携

- ①バスターミナル設置 ②レンタサイクルの拠点 ③地場産業振興拠点
- ④地元農産物の販売 ⑤植木・苗木の販売



※この図は整備のイメージである。

図 24 (仮称) ふれあい広場整備イメージ図